ぼくらのチョウ　【中学年３－（１）】

－　教科との関連を生かして　－

（１）　主題名　大切に育てよう　〔３－（１）〕　　関連項目　〔３－（２）〕

（２）　ねらい　自然のすばらしさを知り，動植物を大切にしようとする心情を育てる。

（３）　資料名　「ぼくらのチョウ」

（４）　授業の展開例

	学 習 活 動	主な発問と児童の心の動き	留　意　点
導入	1　自分たちがチョウを育てたときのことを思い出す。	○チョウを育てて，一番心に残っているのは何ですか。 ・たまごが小さくてびっくりした。 ・幼虫のふんが多かった。 ・とちゅうで死んでしまった。 ・きれいなチョウになった。	○教科書のさし絵，ビデオ，チョウの成長についてまとめた資料など提示し，資料に関心を持たせる。
展開	2　資料を読み，話し合う。	○どんな気持ちでチョウの世話をはじめたのでしょう。 ・こんな小さなたまごから，どんな幼虫が生まれるんだろう。 ・葉をどんどん食べて，きれいなチョウになってね。 ○お墓を作っているとき，ぼくはどんな気持ちだったのでしょう。 ・チョウがハチのえさになるなんて，びっくりしたな。 ・チョウは食べられてしまってかわいそうだな。 ・ともやくんもチョウになるのを見たかっただろうな。	○自分たちが育てたことを想起し，重ねて考えることができるようにする。
	3　大切に育ててきたチョウを放すときのぼくの気持ちを考える。	◎見えなくなるまで見守ったときの気持ちを考えよう。 ・遠くまでとんでいってね。 ・こんなに美しいチョウになってよかった。 ・これからは見守ってやれないけど元気でいてね。	○ぼくに共感して考えるためにワークシートのふき出しへ記入させる。
	4　自分たちの生活を振り返って話し合う。	○生き物を大切にするってどうすることだろう。 ・弱ったからと言って最後まで育てなかったことがある。見捨ててしまったようでかわいそうだった。	○自分たちの経験を振り返り，ねらいとする価値にせまるよう助言する。
終末	5　教師の話を聞く。	・どの生き物も精一杯生きているんだね。大切にしたいな。	○ねらいに関わって教師のの体験談を示し，次への活動の意欲付けを図る。

ぼくらのチョウ

三年生で、チョウを育てることになった。今日は、チョウのたまごさがしがしゅくだいだ。ぼくは、たけしくんをさそって、畑にたまごをさがしに行くことにした。

畑に行くと、チョウが飛んでいる。大よろこびでたけしくんとぼくは、キャベツを見てみるけれど、なかなかたまごが見つからない。（本当に見つかるかな。）と不安になったころ、

「あった！見つけたよ。チョウのたまごだ！」

たけしくんの声が聞こえた。行ってみると、小さな点のような黄色いたまごがあった。

「うわあ、チョウのたまごって、こんなに小さいんだね！」

学校に持っていき、入れ物に入れて育て始めた。たけしくんと、ぼくのたまごだ。

そして、点のようなたまごから小さなよう虫が生まれた。生まれたばかりのよう虫はよく見ないとわからないくらい小さい。小さくても、元気に動き、入れたばかりの葉をもりもり食べ始めた。葉をたくさん食べて、フンもたくさんする。そして、見るたびに少しずつ大きくなっていった。

ある日、ともやくんのよう虫から、たまごのような物がたくさん出てきた。（よう虫がたまごを生んだのかな。）と思っていたら、先生が、

「このよう虫は、ハチにたまごをうみつけられていたんだね。よう虫は、このハチのえさになるんだよ。」

と教えてくださった。チョウのよう虫が、ハチのえさになるなんて、ぼくは全然知らなかった。ともやくんは、今まで世話をしてきたよう虫が食べられてしまうと知ってショックを受けていた。休けい時間、ともやくんといっしょにぼくはよう虫のおはかを作った。

「チョウになるまで、育てられなかった…。」

ともやくんは、そう言ってないていた。

ぼくらのよう虫は元気がない。毎日新しい葉を入れるのに、最きん食べなくなってきたようだ。色も少しくすんできた。いっしょに育てているたけしくんは、

「弱ってきているよ。キャベツ畑にかえしてやろうよ。」

と言った。でも、ぼくはせっかく今まで育てたのだから、ぼくらのよう虫がチョウになる最後まで育ててやりたい。千秋ちゃんも、

「さなぎになる前は、少し動きが少なくなるよ。」

と言っていた。だから、ぼくは、

「さなぎになるから、動きが少なくなっているんじゃないかな。もう少し、様子を見ようよ。」

と言った。たけしくんは、
「さなぎになるには、色も悪いし、糸もはかないから、やっぱりおかしいよ。」
と言う。周りにいた友だちが
「弱っているんなら、キャベツ畑にかえすとほかの虫にねらわれるんじゃないか。」
「弱っているのに、せまい入れ物にずっと入れておくのはかわいそうだよ。」
と言っているのも聞こえる。

ほうか後、よう虫は糸をはき始めた。
「やった！」
ぼくらのよう虫は、元気だったんだ。

何日かたって、ぼくらのさなぎの周りにみんなが集まっていた。ぼくも行ってみた。すると、さなぎのせ中からチョウが出てきた。ゆっくりとはねをのばしているのを見ていると、むねがドキドキした。はねをのばしてじっとしている。だれかが、
「はねをかわかしているんだ。」
と言った。ぼくには、白くかがやいているように見える。いつの間にか、たけしくんもそばにいた。

二人でチョウをにがしにいった。
「元気でね！」
見えなくなるまで見守った。

活用に生かすための実践報告

◎「ぼくらのチョウ」

１　主題の設定

生活科，理科等で生命の誕生，成長していく姿，変態の様子など観察し，自然のもつ美しさ，すばらしさを共通体験してきている。それら生き物の成長を見守る過程で，食べたり食べられたりという食物連鎖や変形してしまうなど，恐ろしさや不思議さを目の当たりにしている児童もいると考える。

これらの豊かな経験を生かして，資料の情景をとらえることよりも，資料をきっかけに自分たちの自然とのかかわりを振り返り，自然や動植物を大切にしようという思いをもつことが重要であると考える。

２　指導過程の工夫

実践では，資料を「『弱っているのに，せまい入れ物にずっと入れておくのはかわいそうだよ。』といっているのも聞こえる。」というところで切った。そして，自分だったら幼虫を育てるのか，にがすのかについて理由を付けて発言させ，様々な価値観をもった理由を聞き合った。ここで重要なのは，「育てる」「逃がす」の判断ではなく，「なぜ育てる（逃がす）のか」という一人一人の考え，価値観である。

様々な考えや思いの違いを聞き合う中で，「本当にそれでいいのだろうか」話し合いながら考えていくために質問をし合う。質問や意見を交わし，生活体験と照らして考えることによって動植物を大切にするとはどういうことなのか，より深く考えることができる。

３　発問の工夫

導入，資料提示の後「この幼虫をどうしますか」と発問し，考えさせた。「幼虫が弱っているのはなぜか。」という理科的な意見や「育てる」「逃がす」どちらか一方がよいとする判断のみを重視する意見も出ると考えられる。このような授業展開にする場合には，「動植物を大切にするために，なぜそうするのか。」切り返し，焦点化する必要がある。

４　児童の反応（授業後の感想）

・わたしは２年生の時に死んだねこのことを思い出しました。おばあちゃんが，もう死ぬとわかっているのに，夜ずっと見てあげていたことです。最後まで世話してあげたら，少しでも死ぬのが遅くなると思います。生き物はみんな，大人になるまでに死ぬことがあります。ともやくんのチョウは幼虫のうちに死んでしまったけど，ぼくたちのチョウは成虫になるまで生きてほしいと思いました。後で死ぬかもしれないけど，できるだけ長生きしてほしいと思ったからです。

・ぼくは，今，こいの小さいのを飼っています。そのこいは，金魚すくいでとりました。前，何びきも飼っていたらどんどん死んでいったから，ぼくは逃がした方がいいかな，と思いました。でも，他の魚に食べられたらいけないと思ったから，今，飼っています。生き物を大事にするには，逃がした方もいいけど，育てるのもいいと思います。

５　実践者からの一言

この時期の児童は，自然の中で活発に過ごすことが多い。そこで，自然体験も十分にでてくると考えられるが，授業を展開する前に十分実態把握しておくことが重要だと考える。

（竹尋小学校　小畠千鶴）